

機関誌アンケートと機関誌の刊行体制の変更

はじめに

2002 年に始まった機関誌『ドイツ文学』の国際誌化はまもなく 20 年目を迎えるが、学会誌を取りまく状況はその間に大きく変化した。独文学会の会員数は 3 分の 2 に減少し、諸事業の統合・縮小が喫緊の課題となっている。また、ソーシャルメディアの大幅な進歩により、「国際化」の意味も大きく変わった。その反面、『ドイツ文学』と Neue Beiträge は学会の中央機関紙として、学術誌としても情報誌としてもますます重要度を増している。

今回のアンケートは、こうした状況をふまえ、会員の機関誌に対する要望や意見を汲みながら、機関誌を持続可能な刊行体制へと移行させるためにおこなわれた。数値化された結果を単純に読めば、「機関誌は年 1 巻体制で、かつオンラインジャーナルでもよい」というのが会員の希望であるようにみえるが、内容を細かく分析すると、るべき機関誌の姿はそう単純なものでもないことがわかる。数値の意味するところをさまざまな角度から分析し、それをもとに理事会で慎重に議論を重ねた結果、本理事会は「欧文誌の冊子体による刊行を取りやめ、電子ジャーナルとして存続させる。和欧混合誌に情報誌的機能をもたせる」という結論に達した。

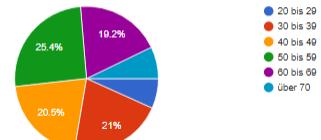
以下にアンケート結果の分析を示す。(回答者数 224 名)

項目ごとの分析

1. 年齢

20 代、70 代以上を除いて、回答者は各年代ごとにほぼ均等に分布している。

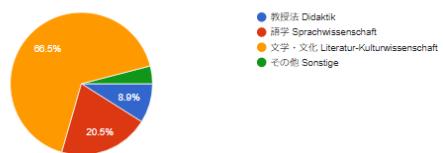
1. あなたの年齢 Ihr Alter
224 件の回答



2. 専門領域

回答者の専門の内訳はおおよそ、文学・文化 7 割、語学 2 割、教授法 1 割という分布である。後に見るように、ある特定の問いに、ある特定の専門分野が突出した回答をしているという事実はなかった。

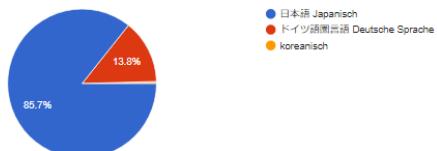
2. あなたのご専門領域 Ihr Fach
224 件の回答



3. 母語

日本人 85.7%、ドイツ語母語話者 13.8%。

3. あなたの母語 Ihre Muttersprache
224 件の回答



4、5. 混合誌、欧文誌をよく読むか。

混合誌の棒グラフはきれいな対称的山型を描き、平均的に読まれていることを示しているが、欧文誌は右肩上がりで、読まない会員が比較

的多いことを示している。

ドイツ語母語者（32名）に限つてみれば、欧文誌を読む会員数は、1（よく読む）-5（まったく読まない）の分布はそれぞれ、1（2）、2（10）、3（13）、4（4）、5（3）。78%のドイツ語母語話者会員がある程度は読んでいることを示している。

これに対して、日本人が欧文誌を読む会員数の分布はそれぞれ、1（13）、2（33）、3（52）、4（71）、5（24）。ある程度読む（1~3）の割合は50%と低く、日本人会員の半数が欧文誌をほとんど読んでいないことがわかる。

混合誌の読書率と欧文誌の読書率には、日本人の場合相関性があり、一方をよく読む会員はもう一方もよく読んでいるが、ドイツ語母語話者の場合、相関性はない。当然のことながら、ドイツ語母語話者が混合誌を読む比率は低い。

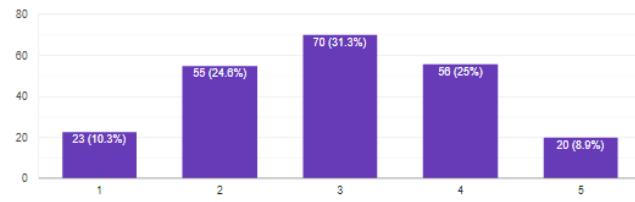
6. 特集

約70%の会員が特集を興味をもって読んでいる（1~3）。興味のあった特集は、会員数に応じて文学部門のものが比較的多く挙げられている。反面、特集が一般投稿を阻害するという否定的な見解もわずかだがある。

興味深いのは、ドイツ語母語話者でも日本語による特集を興味をもって読んでいる点である。反対に、「興味深くない」（4, 5）と答えたドイツ語母語話者は語学、教授法の専門家が多い。これは相対的に語学、教授法の特集が少ないことによると思われる。日本語の特集であっても、ある程度の欧文の占める割合を予定して企画するべきではないか。

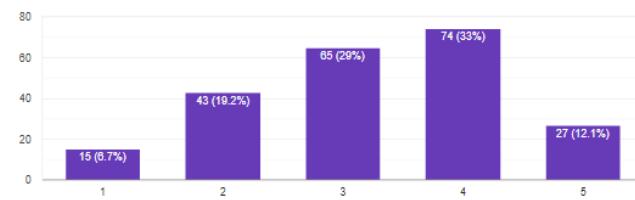
4. 和欧混合誌（国内誌）をよく読みますか。Lesen Sie die japanisch-deutsche Ausgabe ... ?

224件の回答



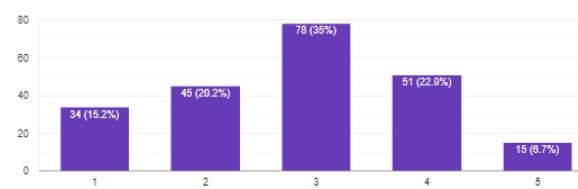
5. 欧文誌（国際誌）をよく読みますか。Lesen Sie die internationale Ausgabe ... ?

224件の回答



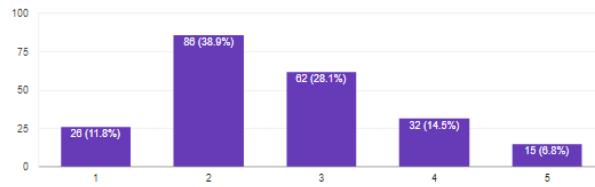
6. 特集について興味深いと思われますか。Sind die Sonderthemen für Sie ... ?

223件の回答



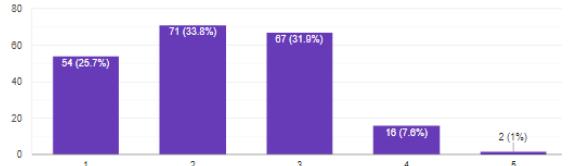
7. 新刊紹介・書評について興味深いと思われますか。Sind die Buchbesprechungen für Sie ... ?

221件の回答



8. 和欧混合誌（国内誌）の学術水準は十分に高いと思われますか。Ist das Niveau der jap.-dt. Ausgaben durchschnittlich ... ?

210件の回答



8.9. 混合誌、欧文誌の学術的水準

比較的多くの会員が**機関誌の学術的水準は高い**と判断している。機関誌をよく読む会員ほど、評価は高く、熱心な読者には『ドイツ文学』はある程度満足を与えていたと言える。

12.13. 紙媒体か電子ジャーナルか

紙媒体でなくともよいと答えた回答者は全体では 51.6%で、紙媒体を希望する 39%を上回っているようにみえるが、日本人に限れば、「いいえ(紙媒体でなくともよい)」93名、「はい(紙媒体で)」81名でほぼ拮抗している。これに対しドイツ語母語話者は「いいえ」17、「はい」7 で紙媒体を希望しない回答が多い。これは混合誌が彼らにとって不要という事情があるからかもしれない。どちらとも決めかねている回答も多い。

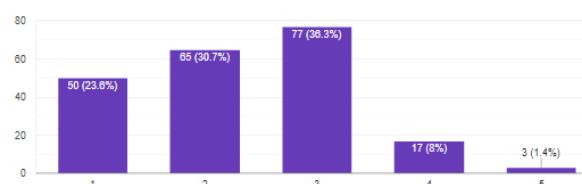
12 と 13 は同じ問い合わせの裏返しなので、裏返しの結果にならなければならぬはずだが、13 の円グラフ上では、電子ジャーナルを希望する会員が多い印象を与える。このすれば、12 で紙媒体を希望した回答者中 16 名が、13 で「いいえ」と回答せず、「両方で良い」と答えるか、あるいは無回答だったからである。すなわち、「どちらか一方が紙媒体なら、もう一方は電子版でも良い」という希望を拾う選択肢がなかったことによる。

14. 年間 1 巻体制でもよいか 「はい」110、「いいえ」77。数の上では 1 巻体制を支持する声が多い。

賛成派の主な論拠：

「学会の財政状況を顧慮」、「編集者の労力軽減」、「厳選された論文だけを読みたい」、「一巻の内容を充実させればよい」、「電子化する」、「2巻を読む時間がない」、「他にも

9. 欧文誌（国際誌）の学術水準は十分に高いと思われますか。Ist das Niveau der internationalen Ausgaben durchschnittlich ... ?
212 件の回答



12. 機関誌は書籍（紙媒体）で提供してほしい。Sollten die NBG gedruckt werden?

213 件の回答



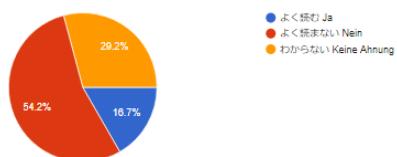
13. 機関誌は電子ジャーナルでも構わない。Könnten die NBG ein digitalisiertes Journal sein?

213 件の回答



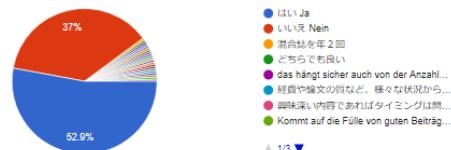
11. 和欧混合誌よりも、欧文誌をよく読む。Lesen Sie lieber die internationalen Ausgaben als die jp.-dt. Ausgaben?

216 件の回答



14. 混合誌（国内誌）年間 1 巻のみの発行にしてもよい。Kann eine einmalige jp.-dt. Ausgabe pro Jahr reichen?

208 件の回答



発表機会はある」、「特集をやめれば誌面に余裕ができる」、「混合誌にもドイツ語論文は掲載できる」、「(紙) 資源の保護」、「置き場がない」

反対派の主な論拠：

「発表機会が減る」、「若手の投稿機会が減る」、「JGG 規模の学会で年間 1 卷体制は少ない」（こう回答する会員が必ずしも、機関誌をよく読んでいるとは限らない）、「Für eine Gesellschaft wie die JGG sollte die wichtigste Zeitschrift schon mehrmals pro Jahr erscheinen. Ideal wäre wohl jedes Vierteljahr」、「仏文学会は近年国際誌の発行を始めた」、「Wegen der Akutualitaet」、「Um eine lebendige fachliche Diskussion zu erhalten, ist eine Ausgabe pro Jahr zu wenig」、「海外発信の意義」、「欧文誌のみに絞って国際発信を強化する」、「特集の回数を維持すべき」、「発行周期が長くなりすぎる」

考慮すべきは、欧文誌廃刊に反対する 77 名にはドイツ語母語話者 15 名が含まれており、それが賛成の 11 名を上回っていることである。反面、ドイツ語母語話者のうち「わからない」「判断できない」という回答の中には、「投稿数次第」「内容次第」というものもあり、欧文誌の廃刊にある程度理解のある回答もあるが、欧文誌の規模縮小により、ドイツ語母語話者がデメリットを被る、(あるいは被ったと考える)可能性があることを考慮すべきである。

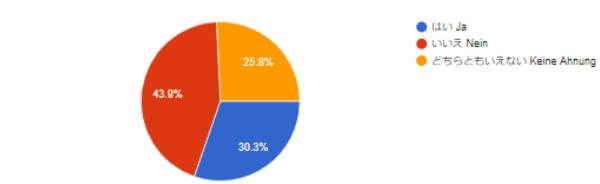
ドイツ語母語話者の反対意見に次のものがあった。：“Es kommt natürlich auf die Zahl der Einreichungen an. Sofern die ausreichen, sollte besonders jungen Wissenschaftlern die Chance gegeben werden, erstmals auf internationalem Parkett aufzutreten. Zudem sollte die Zweisprachigkeit der japanischen Germanistik generell gefördert werden, bis sie Selbstverständlich wird. Und nicht zu vergessen: Auch der Dialog zwischen den japanischen und deutschen Germanisten in Japan spielt eine Rolle und sollte gefördert werden.”この意見にあるように、欧文誌のもつ Dialog 的役割は、学会誌全体において保持するべきである。

15. 学術記事のみの掲載でよい

全会員の約 44%が投稿論文以外の記事の掲載を希望している。積極的に反対しているのは、全体の約 30%。

「はい」(学術記事のみでよい) の 67 名の内訳は日本人 56 名 (83%)、ドイツ語母語話者 11 名 (17%)、「いいえ」(学

術記事以外も読みたい) の 97 名の内訳は日本人 80 名 (82%)、ドイツ語母語話者 17 名 (18%)、「わからない」の 57 名の内訳は、日本人 53 名 (93%)、ドイツ語母語話者 4 名 (7%)。可否についての日独会員の割合はほぼ同じだが、留保したのは圧倒的に日本人である。年齢別の留保者は、20 代：5 名 (0,8%)、30 代：17 名 (29%)、40 代：12 名 (21%)、50 代：14 名 (24%)、60 代：7 名 (12%)、70 代：2 名 (0,3%)。



日本語による学術以外の記事の掲載をドイツ語母語話者が希望する理由は不明だが、彼らのほとんどが 4 つの項目すべてを選択している。これは日本人会員の回答がある程度選択的であることとは対照的である。ドイツ語母語話者が学会の活動状況について情報を求めていることの表れとも解釈できる。

学術記事以外の掲載を希望する会員の年齢別内訳は、70 代：7 名、60 代：24 名、50 代：27 名、40 代：18 名、30 代：16 名、20 代：6 名、となり、中高年の会員ほど機関誌に情報誌的機能を期待していることがわかる。

機関誌（混合誌）を読む読者層が学術誌以外の記事の掲載をどの程度希望している／いないのかを調査すると（無回答を除く）：

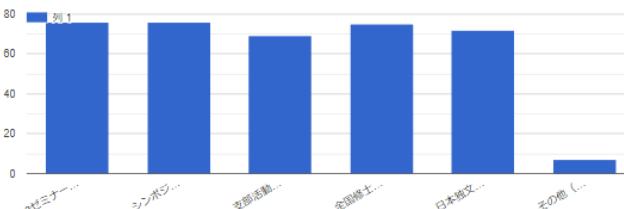
よく読む 24 名（希望する：10 名、どちらとも言えない：9 名、希望しない：3 名）、ある程度読む 55 名（希望する：28 名、どちらとも言えない：10 名、希望しない：17 名）、読む 70 名（希望する：30 名、どちらとも言えない：18 名、希望しない：21 名）、あまり読まない 56 名（希望する：22 名、どちらとも言えない：15 名、希望しない：16 名）、まったく読まない 20 名（希望する：4 名、どちらとも言えない：5 名、希望しない：9 名）。熱心な読者層ほど、学術記事以外の記事を読みたいと回答していることがわかる。

17. オンライン版ニュースレターを読んでいるか

実際に、半数以上(54%)の会員がオンライン版ニュースレターをほとんど読んでいないことがわかる。日本語版しかないのでやむを得ないが、ドイツ語母語話者の回答者の約半数（15 名）がほとんど読んでいない。（ドイツ語母語話者の中にはその存在すら知らない会員がいる。）

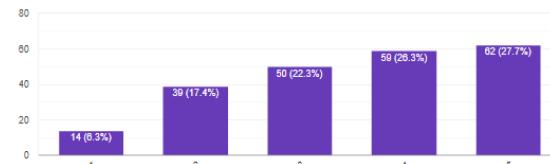
「まったく読まない、ほとんど読まない」の年齢分布を調査したところ、どの世代もほぼ同様に半数が読んでいないことがわかった。ニュースレターが学会の公式な情報ソースとして機能していない可能性がある。

15a. いいえと答えた方：どのような記事・企画なら『ドイツ文学』に掲載されてもよいとお考えですか。 (複数回答可) Wenn nein, was für Rubriken wollen Sie in den NBG zusätzlich lesen?



17. 2019年から別冊がオンライン配信となりました。オンライン版別冊（ニュースレター）をよく読みますか。Seit 2019 sind die Separathefte (Bessatsu) digitalisiert. Lesen Sie die Online-Mitteilungen (JGG-Info-Blatt) ?

224 件の回答



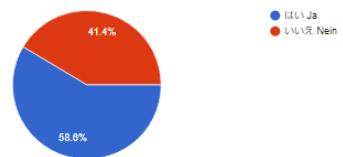
18. 投稿経験

これまでに投稿したことがある会員は全體では 130 名、ない会員 92 名。

その内ドイツ語母語話者の割合は、「ある」12 名（39%）、「ない」19 名（61%）となり、日本人の「ある」62%、「ない」38%のちょうど逆対称となる。ドイツ語母語話者の投稿意欲が低いことがわかる。

18. これまで機関誌に投稿したことがありますか。Haben Sie einmal Beiträge zu den NBG verfasst?

222 件の回答



結論

以上の分析から、次のような結論に至った。

○欧文誌は、1) 十分読まれていない、2) 十分な投稿論文を得ていないことから、現在のところ会員の興味を引く出版物とは言い難い。

○欧文誌が学会総予算のほぼ 10%を充てて刊行されていることを考えれば、費用対効果の低い出版物であると言える。

○会員の多くが、機関誌のオンライン化を支持している。

それに加え、欧文誌を取りまく状況が次のように変化している。

○欧文誌は科学研究費（国際情報発信）の獲得を前提に発行されてきたが、この 7 年間不採択が続いている。また同補助金による助成は、機関誌の自律的性格を損なう恐れがある。

○機関誌の国際誌化は、電子ジャーナル化によってすでに事実上達成されており、冊子体を発行し、それを海外の 330 の機関に配布する意味が薄れている。

○オンライン版では Neue Beiträge は『ドイツ文学』の 2~5 倍の検索件数を得ており、発刊と同時に電子化することに大きな意味がある。

こうした分析結果と状況判断から、本理事会では準備が整い次第次のように機関誌刊行体制を変更することに決定した。

○欧文誌の冊子媒体による刊行を取りやめ、電子ジャーナル版のみの発行とする。

○和欧混合誌には情報誌的機能を復活させる。

(文責 香田芳樹)